

IGF 2023 に向けた国内 IGF 活動活発化チーム キックオフ会合議事録案

1. 会合の概要

日時: 2021年5月20日(木)16:30~18:30

会場: オンライン

URL: <https://japanigf.jp/topics/igf-2023igf>

1.1 参加状況

参加者数: 26名(全員オンライン参加)

1.2 資料

資料 1. 前回議論振り返り(1_前回議論のまとめ_v2.pdf)

資料 2. IGF2023 そしてその先に向けた道筋(2_towardIGF_v0.6.pdf)

資料 3. 日本におけるインターネットガバナンス関連活動の経験と課題

[https://docs.google.com/document/d/1FS1lc-](https://docs.google.com/document/d/1FS1lc-wFCxD94lTjD6TjKMvjUuFkh48Jrq8nBp20U5k/edit?usp=sharing)

[wFCxD94lTjD6TjKMvjUuFkh48Jrq8nBp20U5k/edit?usp=sharing](https://docs.google.com/document/d/1FS1lc-wFCxD94lTjD6TjKMvjUuFkh48Jrq8nBp20U5k/edit?usp=sharing)

資料 4. ワークプランの枠組み(たたき台)_v0.1

[https://docs.google.com/spreadsheets/d/1lf9B9C4mwbg64jgzSeA7DQ_0oUZ-QjO-](https://docs.google.com/spreadsheets/d/1lf9B9C4mwbg64jgzSeA7DQ_0oUZ-QjO-Qq67xGaVy1s/edit?usp=sharing)

[Qq67xGaVy1s/edit?usp=sharing](https://docs.google.com/spreadsheets/d/1lf9B9C4mwbg64jgzSeA7DQ_0oUZ-QjO-Qq67xGaVy1s/edit?usp=sharing)

1.3 アジェンダ

1. これまでの振り返り: 資料 1, 2, 3

1.1. 前回(IGF 2020 報告会第 2 部「今後の IGF への関わり方」)議論の振り返り

1.2. これまでの日本における IG 議論活動の振り返り

2. 本日の打合せの目的確認

3. IGF2023 ホスト(政府)としての検討状況報告

4. 本チームの位置づけ確認

4.1. 本チームの目的の確認

4.2 当面の活動内容

5. IGF2021 事前イベント(10月?開催予定)の内容検討

- アジェンダイメージ
- プログラム委員会

6. 全体ワークプラン(たたき台)作成に向けたイメージ紹介:資料 4

7. 今後の進め方

- TODO 確認
- 次回アジェンダ
- 次回打合せの開催時期
- 次回打合せ時に追加で声をかけるべきメンバー

8. その他

2. 議論の概要

参加者のコンセンサスにより、司会は前村氏が行うこととなった。

続いて、司会より、本日の資料および目的の概要確認が行われたのち、議論に入った。

1. これまでの振り返り:資料 1, 2, 3

1.1. 前回議論の振り返り

高松氏より、資料 1 に基づき説明があった。活動は大別して、日本政府が中心となる、IGF 2023 ホストとしての活動と、マルチステークホルダーによる国別 IGF、こちらは IGF 2023 だけを目指とするのではなく恒常的なコミュニティとして活動できる体制づくりを目指す、の 2 つに分かれ、本チームでは主に後者としての活動構築が必要という議論になっている。そして一部のコミュニティからの参加者が多い議論になりがちだったため、巻き込みが弱いステークホルダー、特に消費者団体、ユーザー企業および技術提供企業をどのように巻き込んだらよいか、という議論がなされた。

1.2. これまでの日本における IG 議論活動の振り返り

堀田氏より、資料 3 に基づき、これまでに日本で行われてきたインターネットガバナンス関連の活動について説明があった。資料 3 は想像の範囲での仮埋めの部分もあるため、内容が分かる人は Google Docs に書き込んで欲しい旨の依頼がなされた。その後会津氏より、IGF-Japan の記述が違うと思う、および Japan IGF のチャーターを作成する際に、今までの問題点を反映すべき、国内 IGF 活動を活発化させるにあたり IGF の原則の透明性ある確認が必要、という意見があった。

2. 本日の打合せの目的確認

2.1. IGF2023 ホスト(政府;総務省)としての検討状況共有

2.2. 本チームの目的に関する意見交換、確認

2.3. 全体のワークプラン作成に向けた進め方の合意と開始

2.4. 当面(2021 年内)の検討の進め方の概要についての合意

3. IGF2023 ホスト(政府)としての検討状況報告

総務省飯田氏より、2023 年のホスト国として MAG に参加して検討状況を見ていること、2021 年のホ

スト国であるポーランドが行っている IGF に関する働きかけの状況、IGF 2021 におけるプログラム募集について、日独サイバー協議の際に IGF に関しても触れられたこと、今後ホストとしての活動体制が具体化した際には共有したい旨説明があった。

4. 本チームの位置づけ確認

前村氏より、4.1 および 4.2 について概要を説明した。

4.1. 本チームの目的の確認

[目的 1] IGF2023 に向けたマイルストーンの定義と維持、遂行管理

[目的 2] IGF2023 に向けたマイルストーンに基づくワークプランの作成と実行

4.2 当面の活動内容

- [目的 1][目的 2]全体の確定を待つことなく、[目的 2]の最初のサブゴールである「IGF2021 事前イベント」に向けた具体準備スケジュールを作成し、企画・検討を開始
- IGF2023 に向けた具体的ワークプランの作成イメージ認識合わせ(具体的検討分担は次回会合にて実施)

小畑氏より、国内からテーマの提案が出てくるとはあまり思えない、という意見があり、それに対し高松氏より、各ステークホルダーがプロデュースするセッションのテーマについて今後議論できれば、という回答があった。

5. IGF2021 事前イベント(10月?開催予定)の内容検討

- アジェンダイメージ
 - IGF の紹介
 - IGF2021 の特色紹介
 - ◇ テーマ 1 (政府系の人プロデュースするセッション)
 - ◇ テーマ 2 (民間企業の人プロデュースするセッション)
 - ◇ テーマ 3 (消費者系の人プロデュースするセッション)
 - ◇ テーマ 4 (アカデミア系の人プロデュースするセッション)
 - ◇ テーマ 5 (Tech 系の人プロデュースするセッション)
 - ◇ テーマ 6 (Youth がプロデュースするセッション)

加藤氏より、セッションをプロデュースする主体として、ステークホルダーとしての政府を表に出してよいのか、ということと、テーマの分け方として、プロデュースが誰と書くのがよいのか、それとも扱う問題で分けた方がよいのか、という課題提起があった。それに対し、高松氏より各ステークホルダーがプロデュースする形にしたのは、各ステークホルダーが興味のあるテーマを1つずつ持ち寄る形にするということを意図している、との回答があった。

小畑氏からは、日本ではあらゆるものが業界団体ごとの垂直統合で進められているため、それを突破する枠組みを作る必要性、および所属企業を代表して議論する仕組みの必要性が指摘された。司会より、各テーマのプロデュースは各ステークホルダーが行うが、各テーマの議論自体はマルチステークホルダーで行うことが確認された。

八田氏より、IGF 事前イベント向けに、再定義を核としたテーマ案が 5 つ提案された。インターネットの再定義として、Contract for the Web を提唱した Tim Berners-Lee 氏を呼ぶ、エンジニアの再定義として、情報セキュリティの専門家でエンジニアも公共政策に関わるべき、という主張を行っている Bruce Schneier 氏を呼ぶ、アクティビズムの再定義としてインターネットを活用している海外のアクティビストを呼ぶ、日本について正直に伝える、日本の再定義セッションを開催する、などが提案された。これに対し小畑氏より、業界団体の枠を超えて議論するために、あえて立場の異なる、または対立する人を準備しないと議論が盛り上がらないのではないか、というコメントがあった。

実積氏からは、各ステークホルダーがテーマを提案して議論すると、参加者が自分の関心ある所だけ聞いて帰る恐れが出てくるので、テーマを1つとして皆が参加するごった煮のようなセッションの方がよいのではないかという意見が提示された。

一井氏からは、IGF のテーマが社会への影響が中心になってきたので、政治の分断やデータプライバシーの話など、厳しい議論をする場になることに我々は耐えねばならず、そのためには政府の後ろ盾を得たり、組織の体力を高めたりする必要があるのではないかという意見があった。

兼保氏からは、理想としてのあるべき論とは分けて、我々が現実的にどこまでできるかということについては話すべきというのが 1 点目、2 点目として、日本は政府や業界団体の検討会に支えられてなんとか成り立っている点はポジティブにとらえて国外の人たちに向けて発表するのもアリではないか、という意見があった。

立石氏からは、一井氏の意見に対し、覚悟を決めてやるしかなく、どちらか(政府の後ろ盾 or 組織体力向上)に振るかを決めないといけない、という意見が表明された。

加藤氏からは、テーマ数は必ずしも 6 個ではなく、出てこなければ、また時間の制約があるだろうから協議して 2 つか 3 つに収め、それらのテーマを(同時にではなく)順次議論してはどうか、という提案があり、高松氏からは賛同した旨コメントがあった。

小畑氏からは、国内事前会合であっても、パネリストではない参加者から意見が多く出るよう、パネリストはマルチステークホルダーである必要がある、各ステークホルダー出身のパネリストが自分の立場に立って議論をしないと、一般参加者は意見を出せないで、セッションを作るにあたっては、テーマ選定などの仕組み構築が大切ではないかという意見があった。

立石氏からは新しい動きが出てきている海賊版について議論してもよいのでは、もし準備がうまくいかない場合はその時点で別のテーマに切り替えればよい旨提案があった。堀田氏からは、セッションの提案を公募できるとよい旨の意見があった。その後立石氏からセッションの公募も併せてやってみてもよい、との意見があったため、前村氏より、テーマの公募は行うが、先に提案されたテーマは取り入れ、予定調和にならないよう議論が分かれるテーマを志向するというイメージを持っている旨表明があった。

- プログラム委員会
 - 委員は公募か？→公募の場合、公募先は？

司会より、プログラム委員会について、委員を公募するのか、それとも今集まっているこの場をプログラム委員会とするのか、などいろいろなアイデアがあると思うので、意見を求める旨発言があった。堀田氏からプログラム委員を公募で集めることを前提として、プログラムの選定基準はまずは全員がよいと思うものにすればよいのでは、という発言があり、司会より、プログラム委員を公募で集めることとする旨発言があった。

6. 全体ワークプラン(たたき台)作成に向けたイメージ紹介:資料 4

高松氏より、資料 4 に基づき説明があった。Google Docs 上の文書なので、提案モードで書き込めるため、意見や提案があれば随時書き込んでもらいたい旨司会から案内があった。今後は 6 月から 8 月の間に企画を行うが、6 月中に固めてイメージができることよいため、具体的な線表を次回会合で持ち寄って検討したい旨司会から発言があった。

7. 今後の進め方

● TODO 確認

- (1) 本チームの目的を確認するため、前村氏がチャーター案を作成することとなった。
- (2) 具体的準備スケジュール案については、高松氏が作成することとなった。本日提案された以外にテーマがあれば、メーリングリストに提案いただきたい旨司会より案内があった。
- (3) 全員が資料 3「日本におけるインターネットガバナンス関連活動の経験と課題」を確認し、必要なコメントを書き込むこととなった。
- (4) 全員が資料 4「ワークプランの枠組み(たたき台)」を確認し、意見や提案を書き込むこととなった。

● 次回アジェンダ

- 本日の議論を基に本チームのチャーター合意
- IGF2021 事前イベントに向けた具体準備スケジュール合意

● 次回打合せの開催時期

6 月前半で別途調整することとなった。

● 次回打合せ時に追加で声をかけるべきメンバー

特別なアイデアは出なかった。

8. その他

小畑氏より、政府というステークホルダも多様でないといけないのではないかとということで、経済産業省などにも声を掛けておいた方がよいのではないかと、プロセス的にオールジャパンになるように仕組

みを作ってからプログラム委員の募集などに進めていってもよいのでは、という意見があった。上村氏からは、Japan IGF contact との関係も含め、海外への本チームの見せ方を今後どうするのか、という質問があった。司会からは、いずれも考えたい、相談させてほしい旨返答があった。